剣道が続けられ、みんなに感謝

曹洞宗長谷山祥泉院住職
竹田　法俊

中学、高校と部活は剣道、今思い出すと高校での毎日は、辛い稽古に完全燃焼の日々を過ごしました。今も指導してくれた先生、先輩の一言、一言が思い出されます。

大学時代は茶道・書道・陶芸も習いましたが、中でも剣道が一番好きで、町道場と同好会に通いました。28歳（1979年）の時、父の勧めにより、若さだけの勢いで、寺の保育園の中に円心館竹田道場を開くことになりました。450年の歴史ある寺でもあるので、坐禅と剣道の指導も兼ねることにしました。当時、私はまだ四段だったので、他から指導の先生を招いて自らは副館長を務めました。平成11年に私は教士の称号いただき、館長の座につくこととなりました。

今年、道場の開場28年目となり、私も56歳となりましたが、道場では皆と共に成長をめざし励んでおります。ともかく稽古ができることが何より楽しみです。

私どもの道場では帰る時は必ず子供たち一人一人に私は握手して帰します。開場5年目して一時会員が100名以上になったことがあり、子供から「今日は先生と稽古していない」との不満が上がるようになりました。しかし毎回全員と稽古はできません。悩み考えた挙句、稽古に来た子供全員に握手することにしたのです。道場に来る子は、おとなしい子、元気な子、目立たない子、色々です。握手することで一瞬でも一対一の時が持てます。中学生になると握力もつき、握り返しも痛いぐらいです。剣道は奥が深く、先生は強くて当たり前、その上優しさ、気配り、立ち居振る舞い、気品が求められます。

私は六段を取得するのに4年間もかかりました。大変苦労しましたが、その後あちらこちらで稽古させていただいたおかげで、七段は1回で昇段することができました。寺の住職をして10年になりますが、剣道を通して、大変良い経験を味わうことができました。実は父のねらいはここにあったのかもしれません。

さて、我が道場のことに戻ります。稽古する場所は寺の境内に現在2カ所、12m四方の保育園第1道場と、この5年後に建設した老人ホーム2階に20m×10mの長方形200㎡の第2道場があります。稽古は週3回、小・中学生の部は約50名で、今、一番剣道に燃えている子供たちは、小学2年生の元気な剣士15名です。指導しながら若さと元気を分けてもらっています。この子供たちも含めて、2部に分かれ毎週月・金曜日の夜に稽古をしています。その後が大人の会員の稽古です。日曜の朝には特に、大人の会員の稽古があり、稽古時間の半分を基本打ちに充てる内容です。ご婦人の剣士が多いのが我が道場の特徴です。年齢が増すごとに体が硬くなるので、準備体操をしっかりしてから稽古に入るようにします。そうすると、自分が変わったような上位の稽古ができます。稽古の後の爽快感は格別です。日曜は法要の前に、かならずひと汗を流しています。

道場の行事をひとしきり紹介します。年越し稽古で新年を向かえ、新年の早朝稽古週間、稽古初めは寺で稽古安全祈願会、節分会（豆撒き）の時は最前列は皆剣道の子供たちの席取りでにぎやかです。夏の竹刀供養会、合宿は隣接の老人ホームで泊まり、老人との朝食交流会、夜の父兄との食事会は200名ほどの焼肉パーティーになります。寺の中での恒例のきもだめし会は、大人の会員がアイデアを凝らしたものです。なお、大人の会員は子供たちの面倒を看るという約束で入門しています。

このように、寺の住職でもある私にとって剣道は生活の一部です。道場には本尊釈迦如来と四天王を奉っており、稽古では、みんなで仏前に合掌礼で統一しています。ここから寺と人とのつながりもできました。2000名以上の初詣参拝者を喫茶コーナーで接客していただくことに始まり、桜まつり、盆おどり、秋のお祭り、暮れの餅つきまで、寺の行事にも道場の皆様にお手伝いいただいております。月一度の坐禅会も、無料ということもあって毎回40名ほどの方の参加があり、寺の本堂いっぱいに盛況です。また、道場が空いている時は、民生委員の子育て支援の会、ボーイスカウトの活動、地域の老人会など、町内の皆様が使い、地域の交流拠点にもなっています。

剣道の指導も技量、人格ともに優れた先生に支えられ、子供たちに励まされ、妻に支えられ、家族に協力してもらい、今まで続けてこられました、深く感謝しています。これからも礼儀ただしく、誰もが剣道を続けたくなるような道場を目指していきます。

（円心館竹田道場館長）

ずいひつ

（カット・青木千代子）